



サジオモダカ

Alisma plantago-aquatica L. var. *orientale* Sam. オモダカ科 (Alismataceae)

(局方)*Alisma orientale* (Sam.) Juzepczuk

生薬名: タクシャ (沢瀉) 薬用部位: 塊茎

日本の東北以北、アジア北東部に分布する多年草です。湖沼やため池などの湿地に生育し、草丈60～80cmになり、6～7月に開花します。この仲間は温帯、熱帯地方に30種程度が知られています。日本では本種とヘラオモダカ(*A. canaliculatum* A.Br. et Bouch.)が自生しています。生薬「タクシャ」は本種の塊茎で、通例、周皮を除いたもので、アリソール(トリテルペン)などの成分を含み、利尿^{※1}、止渴^{※1}などの作用があります。一般用漢方製剤294処方のうち、八味地黄丸(はちみじおうがん)、当帰芍薬散(とうきしゃくやくさん)、五苓散(ごれいさん)など28処方に配合されています。



※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単 (ショウヤクタン) ～語源から覚える植物学・生薬学名単語集～. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



ザゼンソウ

Symplocarpus renifolius Schott ex Tzvelev サトイモ科 (Araceae)

本州の冷涼地、北海道、サハリンなどに分布し、谷間の陰湿地に生育する多年草で、葉が展開する前の1～3月に花を咲かせます。高さ20cmほどのずんぐりした暗紫褐色の仏炎苞の中に、球状の肉穂花序を形成します。同じ科に属するコンニャクと同様に腐臭を放ち、ハエの仲間に受粉を助けてもらいます。全草に悪臭があることから、英名は Skunk Cabbage(スカンク・キャベツ)です。根・根茎には去痰^{※1}、鎮痛^{※1}、止血^{※1}の作用があるとされます。



※1 アンドリュウ・シェヴァリエ. 世界薬用植物百科事典
日本の薬用植物のすべて. 難波恒雄監訳. 東京, 株式会社誠文堂新光社. 2000, 334p.



サネブトナツメ

Zizyphus jujuba Mill. var. *spinosa* (Bunge) Hu ex H.F.Chow クロウメモドキ科 (Rhamnaceae)



(局方)*Zizyphus jujuba* Mill. var. *spinosa* Hu ex H.F.Chou

生薬名:サンソウニン(酸棗仁) 薬用部位:種子

ヨーロッパから中国にかけて分布する落葉小高木で、托葉が変化したとげを持ち、学名の *spinosa* は多くの刺があるという意味を示しています。生薬「サンソウニン」は種子を乾燥したもので、ジジベオシド(ベンジルアルコール配糖体)などの成分を含み、鎮静^{※1}作用を有します。酸棗仁湯(さんそうにんとう)、加味帰脾湯(かみきひとう)など、一般用漢方製剤294処方のうち5処方に配合されています。



※1 原島広至, 改訂第3版 生薬単 (ショウヤクタン) ～語源から覚える植物学・生薬学名単語集～, 伊藤美千穂, 北山隆監修, 東京, 丸善雄松堂株式会社, 2017, 361p.



サフラン

Crocus sativus L. アヤメ科 (Iridaceae)



生薬名:サフラン 薬用部位:柱頭

ヨーロッパ南部原産と考えられている球根植物です。10～11月に直径3cmほどの淡紫色の花を咲かせます。生薬「サフラン」は本種の柱頭で、クロシンなどの成分を含み、鎮静^{※1}、鎮痛^{※1}、通経^{※1}などの作用があります。日本には江戸時代に伝わり、現在では国内生産量の8割以上が大分県竹田市で生産されています。また独特の甘い香りと水に溶かした時の鮮やかな黄色から、香辛料や天然着色料としてサフランライス、パエリア、ブイヤベースなどの料理にも使われます。



※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単 (ショウヤクタン) ～語源から覚える植物学・生薬学名単語集～. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



サラシナショウマ

Cimicifuga simplex (DC.) Wormsk. ex Turcz. キンポウゲ科 (Ranunculaceae)



(局方)*Cimicifuga simplex* wormskjord

生薬名: ショウマ(升麻) 薬用部位: 根茎

日本、中国北部に分布する大型多年生草本で、草丈150cmに達します。冷涼な気候を好む植物のため、わが国では標高1000m以上の高原にみられます。平地で栽培するときには遮光を必要とします。和名のサラシナは「晒菜」の意味で、若葉を摘んで水に晒して食べたためとされています。生薬「ショウマ」は本種の根茎で、シミゲノール(トリテルペノイド)などの成分を含み、解熱^{※1}、浮腫抑制^{※1}などの作用があります。一般用漢方製剤294処方のうち、乙字湯(おつじとう)、補中益気湯(ほちゅうえっきとう)など13処方に配合されています。



※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単 (ショウヤクタン) ～語源から覚える植物学・生薬学名単語集～. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



サルトリイバラ

Smilax china L. サルトリイバラ科 (Smilacaceae)

生薬名: バッカツ(菝葜) 薬用部位: 根茎

日本からユーラシア大陸東部、南はフィリピンまで広く分布するつる性落葉低木の雌雄異株で地方ごとに変異が見られます。地上のつるは硬く、節ごとに曲がりながら2m以上に伸び、茎には鋭いとげがあります。11月下旬には赤い果実が山野で目立ちます。生薬「バッカツ」は、スミラックスサポニン A、B、Cを含み、解毒^{※1}作用があります。葉はカシワの代りに餅を包む時に用いられ、それをサンキライ餅とも呼びます。サルトリイバラは「猿捕り茨」の意味で、トゲがあるため猿も引っかかることに由来します。切花やドライフラワーとしても使用されます。



※1 蕭培根主編，真柳誠翻訳編集。中国本草図録 巻9。大塚恭男，庄司順三，滝戸道夫，丁宗鐵監修。東京，中央公論社。1993，240p.



サンシュユ

Cornus officinalis Siebold et Zucc. ミズキ科 (Cornaceae)



生薬名:サンシュユ(山茱萸) 薬用部位:偽果の果肉

中国に分布する落葉小高木で、高さ3～4mになります。江戸時代に朝鮮半島を経て日本に渡来し、和名は漢名「山茱萸」の音読みです。生薬「サンシュユ」は、偽果の果肉を乾燥したものです。なお、植物学的にはサンシュユの果実は偽果で、花床の成熟したものです。また、種子と思われる部分が果実になります。成分としてロガニンなどを含み、止汗^{※1}、強壮^{※1}作用を有します。一般用漢方製剤294処方のうち、八味地黄丸(はちみじおうがん)など6処方に配合されています。



※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単 (ショウヤクタン) ～語源から覚える植物学・生薬学名集～. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



サンショウ

Zanthoxylum piperitum (L.) DC. ミカン科(Rutaceae)



生薬名:サンショウ(山椒) 薬用部位:果皮

日本、朝鮮半島、中国の山地に分布する雌雄異株の落葉低木で、高さ2～3mになります。果実ができる雌株を「実ザンショウ」、花だけをつける雄株を「花ザンショウ」と呼びます。生薬「サンショウ(山椒)」は、本種の成熟した果皮で、果皮から分離した種子をできるだけ除いたもので、サンショオールなどの成分を含み、鎮痛^{※1}、抗菌^{※1}作用などが期待されます。一般用漢方製剤294処方のうち、大建中湯(だいけんちゅうとう)など6処方に配合されています。変種のアサクラザンショウは、幹や枝にトゲがなく果実も大きくて収穫しやすいのが特徴です。また、幹の部分をすりこ木として利用すると、香りがよく殺菌効果も期待できます。



※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単(ショウヤクタン)～語源から覚える植物学・生薬学名単語集～. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



ジオウ

Rehmannia glutinosa (Gaertn.) Libosch. ex Fisch. et C.A.Mey. ジオウ科 (Rehmanniaceae)



(局方) *Rehmannia glutinosa* Liboschitz var. *purpurea* Makino

ゴマノハグサ科 (Scrophulariaceae)

生薬名: ジオウ(地黄) 薬用部位: 根

中国北部に分布する多年草です。草丈10～20cmになり、4～6月に開花します。当園では組織培養技術を利用してウイルスフリー株を増殖して展示しています。生薬「ジオウ」は本種の根又はそれを蒸したものです。根を陰干ししたものは生地黄(ショウジオウ)、生地黄を陽乾したものを乾地黄(カンジオウ)、生地黄を酒と共に蒸したものを熟地黄(ジユクジオウ)とそれぞれ呼びます。カタルポール(イリドイド配糖体)などの成分を含み、止瀉^{※1}、緩下^{※1}、利尿^{※1}などの作用があります。一般用漢方製剤294処方のうち、八味地黄丸(はちみじおうがん)、四物湯(しもつとう)など39処方に配合されています。



※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単 (ショウヤクタン) ～語源から覚える植物学・生薬学名単語集～. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



シナマオウ

Ephedra sinica Stapf マオウ科 (Ephedraceae)



生薬名: マオウ(麻黄) 薬用部位: 地上茎

中国北部～中央アジア、インドの乾燥地帯に分布する裸子植物で、常緑の小低木です。生薬「マオウ」は本種の地上茎で、エフェドリン(アルカロイド)などの成分を含み、鎮咳^{※1}、去痰^{※1}、抗炎症^{※1}、発汗^{※1}、解熱^{※1}などの作用があります。エフェドリンは、後に日本薬学会初代会頭となった長井長義により1885年に初めて結晶化して単離されました。一般用漢方製剤294処方のうち、葛根湯(かっこんとう)、小青竜湯(しょうせいりゅうとう)など感冒処方を中心とした32処方に配合されています。



※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単 (ショウヤクタン) ～語源から覚える植物学・生薬学名単語集～. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



シャクヤク

Paeonia lactiflora Pall. var. *trichocarpa* (Bunge) Stearn ボタン科 (Paeoniaceae)

(局方)*Paeonia lactiflora* Pall.

生薬名:シャクヤク(芍薬) 薬用部位:根

北朝鮮、中国東北部、シベリアの東部に分布する多年草です。草丈40～80cmになり、5～6月に花を咲かせます。生薬「シャクヤク」は本種の根で、ペオニフロリン(モノテルペノイド配糖体)などの成分を含み、収斂^{※1}、鎮痙^{※1}、鎮痛^{※1}などの作用があります。一般用漢方製剤294処方のうち、当帰芍薬散(とうきしゃくやくさん)、芍薬甘草湯(しゃくやくかんそうとう)など102処方に配合されています。



※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単 (ショウヤクタン) ～語源から覚える植物学・生薬学名単語集～. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



ジャノヒゲ

Ophiopogon japonicus (Thunb.) Ker-Gawl. キジカクシ科 (Asparagaceae)



(局方)*Ophiopogon japonicus* Ker-Gawl. ユリ科 (Liliaceae)

生薬名: バクモンドウ(麦門冬) 薬用部位: 根の膨大部

日本、中国、朝鮮半島などに分布する常緑性の多年草です。花は7～8月に開花し、冬には光沢のある青色の果実をつけます。生薬「バクモンドウ」は本種の根の膨大部で、オフィオポゴニン(ステロイド配糖体)などの成分を含み、鎮咳^{※1}、止渴^{※1}、去痰^{※1}などの作用があります。一般用漢方製剤294処方のうち、麦門冬湯(ばくもんどうとう)、竹茹温胆湯(ちくじょうたんとう)など23処方に配合されています。葉の形から、蛇のヒゲあるいは竜のヒゲと呼ばれています。日陰でもよく育ち、公園や庭の垣根ぞいに植えられていて、緑の少ない冬ではひととき目立ちます。



※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単 (ショウヤクタン) ～語源から覚える植物学・生薬学名単語集～. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



ショウガ

Zingiber officinale (Willd.) Roscoe ショウガ科 (Zingiberaceae)



(局方)*Zingiber officinale* Roscoe

生薬名:カンキョウ(乾姜)・ショウキョウ(生姜) 薬用部位:根茎

熱帯アジアに分布する多年草で、草丈30～50cmになります。土の中で横に多肉質の根茎を伸長します。生薬「カンキョウ」は本種の根茎を湯通し又は蒸したもので、ジンゲロールなどの成分を含み、解熱^{※1}、鎮痛^{※1}、鎮咳^{※1}、抗炎症^{※1}などの作用があります。一般用漢方製剤294処方のうち、大建中湯(だいけんちゅうとう)、半夏瀉心湯(はんげしゃしんとう)など31処方に配合されています。生薬「ショウキョウ」は本種の根茎で、ジンギベリン(精油)などの成分を含み、健胃^{※1}などの作用があります。一般用漢方製剤294処方のうち、葛根湯(かっこんとう)、香蘇散(こうそさん)など114処方に配合されています。日本でいう「ショウキョウ(生姜)」は中国の「カンキョウ(乾姜)」を指すので注意が必要です。



※1原島広至. 改訂第3版 生薬単 (ショウヤクタン) ～語源から覚える植物学・生薬学名単語集～. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



シラン

Bletilla striata (Thunb.) Rchb.f. var. *striata* ラン科 (Orchidaceae)



日本の関東以西、中国、台湾に分布する多年草で、5～6月頃に茎頂に紅紫色の花を数個つけます。野生のものは環境省のレッドリストで準絶滅危惧のカテゴリーに分類されています。ラン科植物の中では、最も栽培容易なものの一つです。和名は花の色に由来し、紫色の蘭(らん)という意味から、紫蘭(しらん)と呼ばれています。薬用部位は根茎で、生薬名はビャクキュウ(白及)です。止血^{※1}、排膿^{※1}作用があります。



※1 難波恒雄. 原色和漢薬図鑑(上). 大阪, 株式会社保育社. 1980, 517p.



シロバナムシヨケギク

Tanacetum cinerariifolium (Trevir.) Sch. Bip. キク科 (Asteraceae)



バルカン半島のダルマチア地方に分布する多年草で、「ジョチュウギク」や「ムシヨケギク」ともよばれます。高さ30～80cmになり、茎葉全体に白色の絹毛があるのが特徴です。全草、特に頭花に殺虫^{※1}成分のピレトリンなどを含むため、その粉末が蚊取り線香、のみ取り粉、農業用殺虫剤の製造原料に利用されます。ピレトリンは、昆虫などの神経系統に作用して全身麻痺や運動不能を引き起こす殺虫成分ですが、人や鳥などには比較的毒性が低く、自然界では容易に分解してその毒性を失います。日本では1887年に栽培が始まり、1935年頃には世界一の生産国としてその9割を輸出していました。



※1 Deni Bown. *ENCYCLOPEDIA OF HERBS*. London, Dorling Kindersley Limited. 2008, 448p



スイゼンジナ

Gynura bicolor (Roxb. ex Willd.) DC. キク科 (Asteraceae)

熱帯アジアに分布する多年草です。18世紀に熊本へ伝わり、その独特な風味や香りが茶席や会席料理で好まれたことから「スイゼンジナ(水前寺菜)」の和名が付けられました。その後、北陸の金沢にも伝わり、現在では本家・熊本を凌ぐ夏の加賀野菜の代表「キンジソウ(金時草)」として食べられています。生薬名は「シハイサイ」といい、外用として止血^{※1}作用もあります。



※1 蕭培根主編，真柳誠翻訳編集。中国本草図録 巻6。大塚恭男，庄司順三，滝戸道夫，丁宗鐵監修。東京，中央公論社。1993，240p.



ストロファン투스

Strophanthus hispidus DC. キョウチクトウ科 (Apocynaceae)



アフリカに分布するつる性植物で高さ数メートルにもなることから、特定の植物園でしか見られません。この属の種子は古くから矢毒として用いられてきました。*Strophanthus* は「ねじれたヒモ」と「花」の二つの言葉から命名されています。本種その他、*S. gratus* Baill. などが有名で、これらの種子に含まれている G-ストロファンチンは強心、利尿^{※1} 作用を有します。この成分は、極めて早く排泄（はいせつ）されるため、薬用成分が体内に蓄積する心配はありませんが、長期にわたる投与は避けられていました。



※1 蕭培根主編，真柳誠翻訳編集。中国本草図録 巻5。大塚恭男，庄司順三，滝戸道夫，丁宗鐵監修。東京，中央公論社。1993，262p.



セイヨウアカネ

Rubia tinctorum L. アカネ科 (Rubiaceae)



地中海沿岸の南ヨーロッパや西アジアに分布するつる性の多年草で、7～9月に淡黄色の小さな花をつけます。草丈は50～100cmで、6枚の葉が輪生することから、別名に「ムツバアカネ」という名があります。根にはアントラキノン配糖体(キノン類)などを含み、利尿^{※1}作用などがあるといわれています。また褐色の根皮をむくと、中は赤く、紀元前2500年ごろには赤色の染料としてアイ(*Persicaria tinctoria* H.Gross)とともに知られていました。属名の「Rubia」はラテン語で「赤」を意味し、本種の根から赤色色素が採れることに由来します。



※1 アンドリュー・シェヴァリエ, 世界薬用植物百科事典 日本の薬用植物のすべて, 難波恒雄監訳, 東京, 株式会社誠文堂新光社, 2000, 334p.



セイヨウトギリ

Hypericum perforatum L. subsp. *perforatum* オトギリソウ科 (Hypericaceae)



ヨーロッパ、アジア、北アフリカ原産で、日本でも野生化している多年草です。英名を St. John's Wort と言います。草丈は1mになります。楕円形の葉を押しつぶすと、特有の良い香りがします。乾燥した全草を「カンヨウレンギョウ（貫葉連翹）」と呼び、抗菌^{※1}、止血^{※1}作用があって、喀血、吐血、リウマチによる骨痛、胃・腸カタル、黄疸などに用いられます。また、花の抽出エキ스는サプリメントとして世界中で広く愛飲されていますが、薬物相互作用があることから、厚労省から28種の医薬品との併用を避けるよう注意喚起の通達が出されています。



※1 相賀徹夫, 中薬大辞典 第一巻, 東京, 株式会社小学館, 1985, 702p.



セイヨウカノコソウ

Valeriana officinalis L. スイカズラ科 (Caprifoliaceae)

ヨーロッパの湿った荒地に分布する多年草で、高さは1mを超えます。開花期は6～8月で、白色からピンク色の香りのよい小花が集まって花序を形成します。乾燥した根および根茎は、バレポトリエイトなどの種々の精油成分を含み、鎮静^{※1}作用が期待されます。



※1 蕭培根主編，真柳誠翻訳編集．中国本草図録 巻4．大塚恭男，庄司順三，滝戸道夫，丁宗鐵監修．東京，中央公論社．1993，264 p.



セイヨウノコギリソウ

Achillea millefolium L. キク科(Asteraceae)



ヨーロッパの草原に分布する多年草で、高さ60～100cmになります。本種は園芸的に広く栽培されるだけでなく、日本を含むアジア、北米、さらに南半球の温帯域にまで帰化しています。開花期は夏で、白色の花弁をもつ頭花を散房状につけます。全草に止血^{※1}、鎮痛^{※1}作用などがあるといわれています。属名のアキレア(Achillea)は、ギリシャ神話に登場する英雄アキレスが本種を傷薬として利用したことに由来するともいわれており、古くから傷の治療や血止めに用いられていたことが連想されます。



※1 蕭培根主編，真柳誠翻訳編集。中国本草図録 巻1。大塚恭男，庄司順三，滝戸道夫，丁宗鐵監修。東京，中央公論社。1992，278p.



セイヨウワサビ

Armoracia rusticana G.Gaertn., B.Mey. et Scherb. アブラナ科 (Brassicaceae)

ロシアのカスピ海北部沿岸に分布する多年草です。花茎は50～100cmの長さになり、4～5月ごろに多数の白色の花を咲かせます。本種は畑で栽培し、冷涼な土地を好みます。主要産地の北海道では栽培していたものが逃げ出し野生化しています。辛味成分として日本に分布するワサビ (*Eutrema japonicum* (Miq.) Koidz.) と同じ配糖体シニグリンを含みます。主に生の根をすりおろし、ローストビーフなどの肉料理の薬味やソースの原料に用いて、辛味、風味を楽しみます。また、根には食欲増進^{※1}作用があるといわれています。



※1 アンドリュー・シェヴァリエ, 世界薬用植物百科事典 日本の薬用植物のすべて, 難波恒雄監訳, 東京, 株式会社誠文堂新光社, 2000, 334p.



セージ

Salvia officinalis L. シソ科 (Lamiaceae)



ヨーロッパに分布する常緑の多年草で、高さ40～100cmになります。学名の「*officinalis*」には「薬用」の意味があります。成分としてツヨン、シネオール、ボルネオールなどの精油のほか、タンニン、ロスマリン酸などを含み、収斂^{※1}、駆風^{※1}作用などがあるといわれています。乾燥した葉は肉料理にも用いられ、特に挽き肉の腸詰めには欠かせない香辛料です。大きな株になると夏季の高温多湿で枯れやすくなるので、挿し木で株を更新します。



※1 アンドリュー・シェヴァリエ、世界薬用植物百科事典
日本の薬用植物のすべて、難波恒雄監訳、東京、株式会社誠文堂新光社、2000、334p.



セコイア

Sequoia sempervirens (D.Don) Endl. ヒノキ科 (Cupressaceae)



米国オレゴン州の南部からカリフォルニア州中部にかけて南北725kmの海岸沿いに帯状に分布し、海からもたらされる高い湿度が生育に適しています。特にレッドウッド国立公園には、高さ111.25mに達する個体があり、現在する木の中では世界最高といわれています。イチイモドキやセコイアメスギなどとも呼ばれています。





セリバオウレン

Coptis japonica (Thunb.) Makino var. *major* (Miq.) Satake キンポウゲ科 (Ranunculaceae)



(局方)オウレン *Coptis japonica* Makino
生薬名:オウレン(黄連) 薬用部位:根茎

日本特産の常緑多年草で、本州および四国の樹林下に自生しています。根茎は短く、地中を斜めに這い、黄味を帯びています。生薬「オウレン」は根茎を乾燥したものでベルベリン(アルカロイド)などを含んでおり、健胃^{※1}、抗菌^{※1}、鎮痙^{※1}、利胆^{※1}作用があります。黄連解毒湯、半夏瀉心湯など、多くの漢方処方に配合されます。



※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単 (ショウヤクタン) ～語源から覚える植物学・生薬学名単語集～. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



センキュウ

Ligusticum officinale (Makino) Kitag. セリ科 (Apiaceae)



(局方)*Ligusticum officinale* Makino セリ科 (Umbelliferae)

中国に分布する多年草で、草丈30～60cmになります。北海道で生産される代表的な薬用植物の一つです。生薬「センキュウ」は本種の根茎を通例、湯通ししたものです。本来は芎藭(きゅうきゅう)と呼ばれていましたが、四川省のものが良品であったため、この名称になったといわれています。クニジリド(フタリド類)などの成分を含み、補血^{※1}、強壮^{※1}などの作用があります。一般用漢方製剤294処方のうち、当帰芍薬散(とうきしゃくやくさん)、四物湯(しもつとう)など56処方に配合されています。



※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単 (ショウヤクタン) ～語源から覚える植物学・生薬学名単語集～. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



センダン

Melia azedarach L. var. *azedarach* センダン科 (Meliaceae)



生薬名: クレンピ(苦楝皮) 薬用部位: 樹皮

日本の関東以西に分布する落葉高木で、樹高は20mほどになり、比較的早く生長します。花は5～6月頃に咲き、葉は枝先に多くつき羽状複葉で葉の縁に鈍い鋸歯があります。果実は10～12月に淡黄色に熟し、落葉後の木には楕円形の果実が多数ぶら下がります。果実の中には、1個の核果が含まれます。生薬「クレンピ」は、アスカロールなどを含み、駆虫^{※1}作用があるため、回虫や条虫などの駆除薬に使用されました。センダンの古名は「あふち」で、清少納言の「枕草子」では「木のさまにくげなれど楝(あふち)の花いとをかし。」と詠まれ、花の美しさなどを表現されています。他にも「万葉集」「徒然草」などでも「楝」の名が見られます。また、「梅檀(せんたん)は双葉より芳し」の梅檀は、インドに分布する香木のビャクダン(*Santalum album* L.)を指し、センダンの葉には芳香がありません。また材の利用として、加工性が比較的良好、建材、家具、琵琶の胴などに用いられます。



※1 難波恒雄. 原色和漢薬図鑑(下). 大阪, 株式会社保育社. 1980, 521p.



センブリ

Swertia japonica (Schult.) Makino リンドウ科 (Gentianaceae)



(局方)*Swertia japonica* Makino

生薬名:センブリ(当薬) 薬用部位:全草

日本、朝鮮半島、中国に分布する二年草で、全草に強い苦味があります。初秋のころ、草丈10～20cmになり、白い星状の花をつけます。生薬「センブリ」は本種の開花期の全草で、スウェルチアマリン(苦味配糖体)などの成分を含み、苦味健胃^{※1}などの作用があります。一般用漢方製剤には配合されていません。主に民間薬として健胃薬や整腸薬に配合されるほか、育毛剤にも配合されるなど広く利用されています。本種の和名は、「千回煮出しても、まだ苦味が残っている」ことに由来します。



※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単 (ショウヤクタン) ～語源から覚える植物学・生薬学名単語集～. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.